

生きる基礎力が決まる～1人でできる子の育て方～

1 はじめに

18歳で野外体験のアルバイトを始めて、25年が経ちました。そして、花まる学習会の野外体験部部門を担当して13年が経ちました。13年間で延べ5万人以上の子どもとそのお父さん、お母さんにも関わってきました。そこで見えてきた「いまの子どもの問題」「ご両親が抱えている子育ての悩み」「どんな大人に育ってほしいか」そしてそのために「いま、何をしたらよいか」について、私なりの考えを現場の子どもの事例とともにお伝えしたいと思います。

2 親がいなくなっても生きていける子どもに育てるには

- (1) 究極の目標は親がいなくなっても生きていける子を育てること
- (2) 現社会の大きな問題。「引きこもり、ニート」について 「退職届」を出すのは誰か。
- (3) 社会に出たらあるのは生身の人間との付き合いだけ メシが食える大人になるために必要な力

3 事例より学ぶ

(1) いじめが克服できるかの境界線

事例1: 中学1年生女子Mさん(長女) いじめの発端は歯のかみ合わせが悪かったこと

◇相談したのは担任の先生

◇遺書を見つけたのは同級生の男子(幼馴染)

◇両親のスタンス

→いじめから立ち直った子どもたちに共通していること キーワード: 家庭

→思春期に父を必要以上に嫌わない子の特徴 キーワード: 遊び、感謝

→いじめが特に多い学年、いじめが多い月は毎年同じ

→「子どもが学校に行きたくない」と言ったときのシミュレーションをしておくといい

(2) 社会で問われるのは幼児期の「経験総量」

事例2: 小学3年生E君(1人っ子) ゲーム漬けの日々を変えることが出来るのが野外体験

◇野外でも呪文を唱えるE君

◇川や海はゲーム脳を浄化させる

→ゲームを手放す子どもの分岐点 キーワード: 基準

事例3: 「お茶」と叫ぶ子の成長

◇小学1年生M君 初めての野外体験 1人っ子の成長

◇野外から帰ってきたときの母の反応が大切

事例4: 消極的な末っ子がサムライ合戦をきっかけにして変わる

◇すぐにやられて泣いてしまう 末っ子S君

◇S君の心を強くしたのは、〇〇からの言葉。

4 4歳から9歳で人生を生きる基礎力が決まる

(1)子どもとはどういう生き物かを知ることが大切

- 1)人間は変態する生き物である
 - ・ 幼児期の特性
 - ・ 青年期の特性
- 2)たくましい心を育てるということ

(2)家庭で気をつけるポイント

- 1)子どもが大人に求めているものは、基準。
- 2)国語力は家庭の会話で決まる。
- 3)お母さんができること、お父さんができること
 - ◇お母さんができること
 - ・ 叱り方で子どもの人格が決まる
 - ・ プラス→マイナス→プラスの法則
 - ◇お父さんができること
 - ・ 忙しいお父さんでもできること

事例 5:親子企画「父ちゃん、かっこいい」ダメダメ父さん大変身の巻

(3)子育てのポイント

- 1)一人っ子のポイント(一人っ子は強くなれる)
 - ・ 大人の中で育った弱点、打たれ弱い子に必要なこと、愛情 100%(ホームシック、根拠なき自信、俺天才!)

事例 6:「お願いですから・・・お母さんに電話させてください」と懇願する(小1 男子)

- ・ 2013年小学1年生のときは。
- ・ 2014年小学2年生になったときは。

2)兄弟組のポイント(愛情争奪戦の負け組にさせないために)

- ・ 気にすべきは長男、長女、下の子はある程度放っておいても OK?
- ・ 一人っ子作戦、メシー番法

3)真ん中の子のポイント

- ・ 頑固、行かないと言ったら本当に行かない、何を考えているかわからない
- ・ 共通している嘆き、大人になって一番頼りになるのは誰

4)双子のポイント

- ・ 長男タイプ、末っ子タイプかどうかを見極める

5 まとめ

「子どもを育てるには、村1つが必要だ」この言葉は、私を叱咤激励してくれる大切な人からいただいた言葉です。この言葉が持つ意味は深く、子育ての原点ともいえる言葉だと思っています。お母さん、お父さんが1人で頑張る必要はありません。子どもは、大人に愛された分の優しさと生き方を学びます。正しい子育てはありません。世界で1つだけの子育てを私は応援しています。目の前で微笑む子どもたちの後ろにある、輝く未来を信じて、一緒に悩み、考え、そして少しずつ前に進んでいきましょう。

(2) 社会で問われるのは幼児期の「経験総量」

- ・ゲーム漬けの日々を変えることが出来るのが野外体験。
- ・幼児期ゲームを持っていなかった子どもは、人間力で勝負するようになり、ゲーム以外の物へ熱中出来る。
- ・既にゲーム好きな子どもは、決めた時間を守らせる。ゲーム以外のものを一貫してやらせる。

4歳から9歳で人生を生きる基礎力が決まる

(1) 子どもとはどういう生き物か知ることが大切

- ・幼児期の特性…忘れやすい能力。話を聞いていない時は、近づいて目を合わせて話す。
- ・たくましい心を育てるとのこと…4歳～9歳でもめごとを経験する。

(2) 家庭で気をつけるポイント

◇お母さんができること

- ・叱り方で子どもの人格が決まる。行為を否定して、人格を否定しない。
短く！厳しく！後を引かず！

◇お父さんができること

- ・子どもの心に残る遊びをする。(思いつき泥だらけになる、びしょ濡れになるなど)
思春期に父を必要以上に嫌わない子は、幼児期に父と遊んだ思い出がある。

(3) 子育てのポイント

◇一人っ子

- ・自己肯定感がある、マイペース
- ・大人の中で育った弱点、打たれ弱い子に必要なこと
- ・愛情100%、可愛い子には旅をさせる

◇兄弟(愛情争奪戦の負け組にさせない)

- ・気にすべきは長男、長女。下の子はある程度放っておいてもOK。
生まれた時は両親の愛情100%だったのに、下の子が生まれると愛情が半分に。
- ・一人っ子作戦、メシー番法！順番を正しくしてあげる。上の子を先に立たせる。

◇真ん中

- ・頑固、行かないと言ったら本当に行かない。実は大人になって一番頼りになる！キャプテン！

◇双子

- ・長男タイプ、末っ子タイプかどうか見極める。

※ 本文章は、講演内容にもとづき、編集者の主観でまとめたものになりますこと、ご了承ください。

箕浦先生より

「子どもを育てるには、村1つが必要だ」この言葉は、私を叱咤激励してくれる大切な人から頂いた言葉です。この言葉の持つ意味は深く、子育ての頂点とも言える言葉だと思っています。お母さん、お父さんが1人で頑張る必要はありません。子どもは、大人に愛された分の優しさと生き方を学びます。正しい子育てはありません。世界で1つだけの子育てを私は応援しています。

お忙しい中、ご参加ありがとうございました！